2018 北の学び　カタリバ自然講座

NPO 法人　常呂川自然学校
理事長　羽根石　晃彦

当法人は、2003 年に任意団体より発足して 15 年を過ぎた団体です。地元（北見市）の自然を活用しながら持続ある社会のため**人づくり**を行っています。

現在、「市民調査員」育成を 2011 年から取り組んで８年が過ぎました。今までの活動は、北見市内の住宅街を流れる小町川４ｋｍ足らず川幅 2～3mの小川での魚類調査です。

一見みると、雨が降ったら雨を流す雨水排水路と見られがちです。
周辺の住民は川には、関心が無いのが現状です。

調べて行くにつれて、この川にはヤマメ（サクラマス河川残留個体）が沢山いる事が見えて来ました。秋になると、運や良ければサクラマスやサケが見られるのです。命の循環がこの川で、チャンと行われています。

調べて行くことで、**地域の埋もれている資源が見えて来ます**。

今回、住民の皆さんにも地域の生き物に興味関心を掘り起こすためにユニークな視点を持つ若手研究者や専門家をお招きして、話でだけで聞いているので無く、参加者も語りあえる場　「カタリバ」も作りました。各小人数で語り合う場です。

川魚カタリバ自然講座では、水族館館長の講演の後にカタリ場を設定。館長の「寄生虫をパスタ風に食べた」お話しが、各グループでの話の種になり盛り上がてっいました。「え～、私は食べる気にはならない」「じつは、以外に美味しかも」「○○◇△□…」様々な話がでていました。参加者の中には、漁師経験がある人もいたりして一人ひとりが、自分事して参加していたいだいのではないでしょか！

話をする事は、**言葉化するため考えるから**です。それが、自分ごとになり興味が湧いてくる事が多いのからです。

さらに、川での魚採り体験調査も行いました。小さな小町川を 20 名で魚採り。なんと 20 分前後でヤマメ含めて 400 匹の魚が採れました。みんなも私も「ビックリ！」今まででは、最高匹数です。自分で魚を採り、触れる事で、地域の財産を実感できます。環境白書に「アメマス」や「ホトケドヨウ」「カンキョカジカ」と書いていても実感は沸かない他人ごとに捉えてしまいます。でも、自分が採って触れた「ヤマメ」のほうは自分ごとです。

市民調査員は、**地域の生き物財産をリアルに実感でき、スイッチが入ると自分事になっていきます。**どんどん、深めていきたと思うようなるものです。

今回は、新たに「エゾリスかたりば講座」も開催しました。どうも、川活動は女性には人気が無いです。それに比べてエゾリスは簡単に見る事ができて、可愛い姿は人気です。

当北見市の観光キャラクターのモデルになっています。しかし、誰もエゾリスについては知らないが現実です。

「エゾリスとともに暮らせる街」をキャッチフレーズにこれから、市民調査として**地域財産の観える化しを行きます。**

「調べるから見えて来る。見えて来るからこそ、理解できる持続ある社会ために！　」